

特集

天文手話 51 語リストの公開

～天文手話検討 WG 活動報告～

嶺重 慎、反保雄介（京都大学）、天文手話検討 WG メンバー

1. はじめに

天文手話検討 WG[1]は、インクルーシブ天文学（国籍、民族、人種、ジェンダー、年齢、障害の有無…を問わずあらゆる人と共に推進する天文学）の考え方にたち、天文用語の手話表現の可視化を目指して活動してきました。“Nothing about us without us”（私たちのことを私たち抜きで決めないで！）という国連障害者権利条約（2008年）のスローガンの通り、ろう者・難聴者、手話通訳士、ろう学校の先生とともに活動しています。

まとめるのに大変時間がかかってしまいましたが、このほどようやく会員のみなさまに公開できるレベルになりましたのでご報告いたします。なお、WG メンバーはほかに北村まさみ（手話通訳士）、小谷野依久（JTB）、篠原秀雄（浦和西高）、高橋 淳（古河二高）、高島規子（明星大）、富田晃彦（和歌山大）、根本しおみ（天窓工房）、藤田由紀枝（稲城市役所）、本庄谷 拓（手話通訳士）、南 真由美（大磯町立国府小）の各氏です。また上田啓子、白田・佐藤功美子、岡田智裕、岡本祥吾、篠原雅哉、須藤はるか、西岡克浩、長谷川晃子、廣瀬彩奈、和田みさの各氏に活動をサポートしていただいています。

2. 手話について

2.1 手話は言語

日本で広く使われている言語は日本語と日本手話です。が、手話が言語であることは、まだまだ知られていません。「手話は抽象表現が苦手」「手話はサルでもわかる」といった誤解や偏見もまだあります。

しかし私たちは、手話言語のもつ潜在的

能性に魅せられて活動しています。

「なぜ（わざわざ）天文手話なのか？」とよく聞かれます。理由は、ろう者にとって日本語は「外国語」だからです。ただでさえ難しい学問の学びが、外国語となるとさらにバリアがあがることはよくわかります。もう一つの理由は「手話って面白いから」です。どこがそんなに面白いのでしょうか？

2.2 手話の特徴

それは手話の特徴によく表れています。

第一に、手話は立体・空間表現が得意、ということが挙げられます。音声言語で「ここ」「そこ」「あっち」と言っても書いても、いちおう会話は成立しますが、「ここ」はどこか、「あっち」はどっちか、適確な情報を伝えるのは困難です。しかし手話は指し示す場所で明確に指示できます。

次に時間の流れや動きが表現できること。たとえば、同じ「潰れる」にせよ、「じわじわ潰れるのか」、「がしゃんと」潰れるのか、明確に区別できます。

また、ひととひと、ひととものとの関係の説明が容易ということです。その場にはいない人やものの場所を固定して、その場所を指し示すことによってお互いの関係を示すことができます。さらに CL (classifier) とよばれる手話独特の表現があります。ものの形状や動きを具体的に示した表現であり、手・指だけでなく全身で表情を示すこともできます。

このようなことを考えると、「手話は理科の観察のように、理系的な思考を要する概念の表現において、ときに音声言語より優れた言語である」ということも言えると思います。

用語			手話表現		
和名	英名	# 動画	スクリーンショット	解説	
太陽・地球（天体、現象、層など）					
1	太陽	Sun	1		解説 【利き手と非利き手に分けて解説、なお「動き」は利き手の動きを表す（通常、非利き手は固定、ただし両手を対称に動かす場合など例外もある）】 利き手：五指をすぼめて高く上げ、指を開きながら斜めに降ろす（太陽光がふりそそぐようすを表す）
			2		両手：指文字【れ】（親指と人差し指を伸ばす、人差し指は上向き）をつかって向かい合わせ、上へ上げる（日が昇るようすを表す）
2	コロナ	corona	20181202¥ ★ 19korona.mp4		非利き手：親指と人差し指を伸ばす 利き手：指文字【て】（手のひらを相手に向ける） 動き：非利き手の上半分をなぞるように利き手を動かす
3	太陽系	solar system	20180624¥ ★ 14taiyoukei.mp4		非利き手：手型【OK】（親指と人差し指の先をつけて手の平を相手に向ける） 利き手：手型【バー】（手の甲を上向き） 動き：非利き手の周りを水平に回す（向こう側から手前へ、上からみて時計回り）
14	水星	Mercury	tampe edit¥ 水 星.2.mp4		非利き手：手形【グー】（岩石惑星は【グー】で表す） 利き手：【水】（手の甲を下に向け、上下に揺らしながら移動させる）
15	金星	Venus	tampe edit¥ 金 星.2.mp4		非利き手：手形【グー】（岩石惑星） 利き手：【金】（親指と人差し指で輪をつくり揺らす）
16	火星	Mars	tampe edit¥ 火 星.2.mp4		非利き手：手形【グー】（岩石惑星） 利き手：【赤】（人差し指で唇をなぞる）
17	木星	Jupiter	tampe edit¥ 木 星.1.mp4		非利き手：手形【C】（親指以外の4指をつけて親指と向かい合わせ【C】を作る）（ガス惑星は【C】で表す） 利き手（筋模様を表す）：人差し指・中指・薬指を伸ばし、非利き手の向こう側を動かす
18	土星	Saturn	tampe edit¥ 土 星.2.mp4		非利き手：手形【C】（ガス惑星） 利き手（環を表す）：指文字【こ】（五指を半分折った形）を非利き手の周りに回す

図1 天文手話リスト（部分）。用語（日本語・英語）に続けて、動画へのリンク、動画スナップショットによる動きの図示、日本語による動きの説明文が並ぶ。

3. 手話リストの公開

3.1 天文手話の考え方

以上の考察をもとに天文用語の手話表現を考えています。たしかに学校でよく使う用語については手話表現を集めた本が出版されています[2]。それはそれで有用ですが、あまり詳しくはありませんし、またわれわれの目からみて「これはどうか？」というものも含まれています。

たとえば「金星」は、「金」（という手話）と「星」（という手話、光が自分に向かってくる表現）の組合せになっていますが、自分で光らない惑星の表現として不適切です。

そこでわたしたちは、非利き手でグーをつくり、利き手で「金」や「水」などの手話を組み合わせることにより、岩石惑星を表現することにしました。ガス惑星も同様で、非利き手は「C」の文字になります（図 1 の下半分を参照のこと）。

このような検討を、天文でよく使われる用語を選んで、行ってきました。

3.2 天文手話リストの現状

こうしてとりあえず（ですが）51 語のリストをつくりました。動画および動画のスナップショット（手や指の動きを矢印で示す）です。図 1 がその一例です。なお、興味がおありのかたは、ぜひ

http://www.kusastro.kyoto-u.ac.jp/~tampo/outreach/astro_sign_lang_JP/master.html をご覧ください。

そして感想なりコメントなりお寄せください。また用語のリクエストも歓迎します。

そうしてリストを改善し、やがて広くオープンにしたいと考えています。いずれ、天文関係の（日本語の）オフィシャルなサイトでも、適宜手話を交えることができれば、と考えていますが、今後の課題です。

4. 最後に

残念なことに、いまだに「手話は劣った言語」と思っている方がおられます。それは、音声言語がマジョリティの社会にあって一方的に植え付けられた思い込みであり偏見だと私（嶺重）は思っています。

そこで思い起こすのはレヴィ=ストロースの『野生の思考』[3]です。彼が強調しているのは「未開社会は決して遅れた社会ではない」「近代社会とは異なる社会である」ということです。思うに、ひとは自分の住む世界を中心にものを考え、それが最高だと思い、自分とは異なるタイプの世界を低く見がちです。一方でひとは、自由に生きたいと思いながら、じつは周りに合わせて生きているため、周りの意見が自分の思い込みになる傾向が避けられません。合わせるのが難しいと排除する傾向があるのです。レッテル貼りがステレオタイプ（決めつけ）を生み出し、分離・差別に至ります。私たちの活動は、そのような社会へのささやかな抵抗と言えるかもしれません。

文 献

- [1] 嶺重慎ほか（2020）「第 34 回天文教育研究会集録」 pp.81-84
- [2] ろう教育を考える全国協議会編（2015）『学校の手話～ゆたかな学習と生活のために』星湖舎
- [3] レヴィ=ストロース著／大橋保夫訳（1976）『野生の思考』みすず書房



嶺重 慎